

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
207	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Characteristics of males over 50 years who present with a fracture: epidemiology and underlying risk factors. 骨折する 50 歳以上の男性の特徴：疫学と根底にある危険因子	
執筆者	
Sharma S, Fraser M, Lovell F, Reece A, McLellan AR	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Bone Joint Surg Br.2008;90:72-7.	
キーワード	
osteoporosis, fracture, hip, alcohol excess 骨粗しょう症、骨折、臀部、過量飲酒	
要旨	
目的： 男性の骨粗しょう症と脆弱骨折は保健行政上かなりの負荷となっている。我々は 50 歳以上の男性の骨折についての疫学的側面からの検証と根底にある危険因子について検証した。	
方法： 50 歳以上の男性 2035 人の 2142 件の骨折症例を検証した。	
結果と結論： 骨粗しょう症の有病率は、足首の骨折症例の 17.5%、臀部の骨折で 57.8% の間で開きがあった。骨粗しょう症と関連する主な危険因子は喫煙(47.4%)、過剰飲酒(36.2%)、BMI21 未満(12.8%)、骨粗しょう症の家族歴(8.4%)であった。動けないこと、喫煙、自己申告での過剰飲酒、BMI 低値、72 歳以上、身長の短縮が他の部位の骨折に比べて臀部骨折で有意により頻度の高い危険因子であった。	